福澤全集續言

第十八　會議辨

福澤諭吉

右の如く内々の準備は次第に整ひ社友も次第に事に慣るゝに付き此新法を日本國中に弘めんとは吾々本來の願望にして去年以來塾外の親友には事の次第を語り覓も角もして其同意を求めんとすれども何分にも新奇のみとにして應ずる者少なし其時明六社とて箕作秋坪、津田眞道、西周助、加藤弘之、杉亨二、森有禮等の諸氏と折々會合するみとありしかども演說の一事に付ては何れも半信半疑にて之を共にせんと云ふ者なし就中森有禮氏の如きは年は少かけれども眞論を唱へ西洋流のスピーチは西洋語に非ざれば叶はず日本語は唯談話應對に適するのみ公衆に向て思ふ所を述ぶ可き性質の語に非ず云々なぞ反對するゆゑ余は之を反駁し一國の國民が其國の言葉を以て自由自在に談話しながら公衆に向て語るみとが出來ぬとは些少の理由なさのみならず現に我國にも古來今に至るまで立派にスピーチの演行あり君は生來の坊主の說法を聽聞したるみとなさや、說法を聞かずとならば齊藤の軍談講釋にても滑稽落語にても苦しからず都て是れ一人の人が大勢の人を相手にして我が思ふ所を述るの法なれば取りも直さずスピーチなり講釋師落語家はスピーチが出來て吾々學者には出來ぬと云ふか譯けの分らぬ說なり云々と反覆議論すれども中々屈服の色なし其後或日木挽町の精養軒に明六社員十名ばかりの集會を催はして同日も亦スピーチの話しと爲りしかども相替らず賛成者に乏し依て余は一策を按して何氣なき風に發言し今日は請君に少しく話し申すとがあるが聞て呉れないかと云ふに、何れも夫れは面白い聞かうと云ふ、然らば諸君は此テーブルの兩側に并らんで呉れ給へ、僕は爰で饒舌るからとてテーブルの一端に立ち、頃は丁度盛夏征討の時にて何か其事に付き議論らしきみとをべら〳〵饒舌り樣に卅分か一時間ばかり退屈させぬやうに辯じ終りて椅子に就き、扨今の僕の說は諸君に聞き取りが出來たか如何にと問へば皆々能く分つたと云ふにぞ、ソリヤ見たとか日本語で演說が叶はぬとは無稽の妄信に非ざれば臆病者の遁辭なり今僕の辯じたるは日本語にして僕一人の辯じたる所の言葉が諸君の耳に入て意味が分れば即演說に非ずして何ぞや以後演說の勝利は無用なりとて此日は先づ演說首唱者の勝利に歸して仰分れたり夫れより塾に歸りいよ〳〵此新法を弘めんとするには特に演說の會堂を作るみと必要なりと決して直に會堂に着手したり此時余が手元には著譯書を教授して聊か貯蓄もあり新築の會堂は偶ま在米國富田鐵之助氏より寄贈せられたる諸藩會堂の圖本を本にして之を改築したるに二千何百圓を費して匆々竣工したるものは慶應義塾の演說館にして創立以來今日に至るまで學術演說の長期は効を奏するみと最も速にして衆人の耳心したる演說の長期は効を奏するみと最も速にして衆人の耳心したる演說の流行を成し義塾の演說館に次で凡そ二箇年間に各藩者にて會堂の演說館を新築し其費用等の用に供したり左れば慶應義塾の演說館は其會堂のみを小なれ日本國中に於て最第一等の會堂にして今日に存する可きものにして本に無事に保存するとを願ひ候五百年一種の古蹟として見物する人もある可し

社說

保證準備の制限に就て

日本銀行が制限外發行の特權を運用するに就て充分の注意を加ふ可きは云ふまでもなきとにして其本來の性質を云へば銀行が發行餘力の盛きたる故を以て資金の融通を拒めばいよ〳〵金融の逼促を招き如何なる事變を惹くやも計り難き場合に始めて之を運用して大に逼促せんとする金融に多少の緩和を與ふる其一方には金融市場に金利引上げの意嚮を示して警戒を促すにあり要するに其實際の働きは一時金利の引上げを猶豫する手段たるに過ぎずして若しも之が爲めに金融に緩慢の實を見ず依然資金の急を告げんには斷然金利を引上げて制限外の回收を謀るみと至當の處置と云はざるを得ず然るに目下の實際に日本銀行は七月以來制限外發行を繼續して今日に至るまで回收の機操なきのみか却て其增發の爲めに物價の騰貴を促がしつゝあるが如き決して運用の宜しきを得たるものに非ず一方に三千萬圓に近き制限外發行ある其上に輸入超過の結果として一旦非常の取付に遭ひて正貨準備に意外の減少を見るみとわらんには銀行は今後の金融市場に對して全く其勢力を失ひ如何なる事變あるも手を拱して其成行に一任する外策の出る所なきに至る可し或は此逸を氣遣ひて兌換券の保證準備發行高を擴張して一億圓に增加す可しとの說を爲す者あり一部の實業家みれを唱へ政府部内にも賛成者少なからずして目下銀行と交渉中なりと云ふ兌換銀行券條例の改正には議會の協賛を要するを以て事の成否は今日に於て豫知するを得ざれども試に我輩の所見を述べんに實業家が斯る說を唱ふる其眞意は制限外發行高を此上に增加するは容易に行はるる可らざるのみならず其回收は必然の成行なるを以て更に保證準備の制限を擴張して兌換券の增發を維持し以て一時資金の融通を得んとするに在るとならんなれども其結果は保證準備發行の運轉に由て銀行の利益を增加し、今の制限外發行を制限内に移して銀行をして發行稅の負担を免かれしめ運貨の收縮を妨げて目下の弊害を助長し金融上の變動を激成するに過ぎざるのみ兌換券の增發は必ずしも金利を低廉ならしむるものに非ず日本銀行が現今資金の欠乏を口實として兌換券を增發するが如き要するに策の得たるものに非ざれば若しも實業家の希望通り保證準備の制限を擴張して兌換券の增發を維持するが如き處置に出でんには意外物價を騰貴せしめて資金の需要を促し金融の逼促は日に甚たしかる可し斯くの如きは金融の逼促を救治するに非ずして寧ろ之を激成するものと云はざる可らず抑も兌換制度に正貨準備と保證準備とを設けたるの理由は兌換券の伸縮を自在ならしめんが爲めにして其作用を自然に一任せば正貨準備の發行高は保證準備の發行高と比例を以て增減し從て發換券の發行高は常に適度を保つものなれば若しも漫に保證準備の制限を擴張せんには正貨は自から市外に流出して兌換制度の基礎薄弱となり一朝輸出入に不平均を來すか又は戰爭其他の事變に由て正貨準備に意外の減少を見れば兌換券の流通に困難を招くに至る今明白なり或は近年商賣の發達と共に取引の數を增加して現在の八千五百萬圓の保證準備制限にて或不足なりとの說もあらんかなれども其足ると足らざるとは當局者の目分量に過ぎず明治二十三年制限額を擴張して猶ほ數月を重ねざる今日、同年以後數年の平均流通高を標準として更らに擴張を云々するは或は大早計の譏なきやと我輩の疑を存する所なり彼の英國の如き千八百四十四年銀行條例を制定し英蘭銀行の保證準備を定めし以來今日に至るまで一方には著しき商業上の發達を見ながら特に其制限を擴張したるを聞かず（實際は多少の增加を見たれども）當局者の處置宜しきを得て金融上格別の不便を招きたるみとなく然かも財政家中に兌換制度の基礎をしてます〳〵堅固たらしめんと希望する者少なからずと云ふ斯くの如くにして始めて信用を重んず可き中央銀行の面目を全うしたるものと云ふ可し要するに保證準備の如何は兌換制度の安否に非常の關係ありて平時に於ても其擴張は大に慎重を加へざる可らざるものなるに一時の變態に乘じて之を動かさんとするが如き決して經濟社會に親切の處置と云ふ可らず我輩の一言する所以なり

電報

（時事新報特受ロイヤル電報）

○獨逸は當分占領の意あり

倫敦十一月十九日發

伯林に於て發行する獨逸政府の半官報ポスト新聞に據れば獨逸に對する清國の答辯如何に拘らず目下膠州を占領中の獨逸軍隊は當分同地に駐留すべく且つ冬季の用として假營舍を建造すべしと云ふ

○埃土問題

同上

土耳其が埃地利の要求に服從したりとの風說は正確なる事實なり

○倫敦の大火

同上

倫敦市クリップルゲート區に大火わり其損害額略算四百萬磅（四千萬圓）と稱せらるゝハムセル街、ウエルス街、ニコラス街等全燒し接近隣街の損害亦尠からず

○清廷地方を警戒す

北京十一月廿一日午後一時卅分杉村濬發

同　廿二日午前十時四十分本社着

獨逸軍艦の膠州灣占領に付き清廷地方を警戒す

○獨逸の今回獨逸に對し要求にして六十萬賠償、地を搜索する事あり

○清廷撤清國政に關して先ち獨兵ぜん

○故閔后の

本日故閔后の葬儀里（ー）に向ふ葬の管なり

○演習軍

久留米

昨夜國澤侍從宛て左の勅語

第五、第六師團軍の上奏に鑑み發勢に鑑み發を期ぜよ

○勅語奉讀式

第五第六兩師團行ふ管なり

○山縣大將

山縣大將は本師團の將校及び

○紫星館の

擂き慰勞の宴

○九州鐵道

九州鐵道は第五師團將校、各將校は今期常刑車を毎日

○旗團各隊の

本日より三日間